

大学の世界展開力強化事業
令和4(2022)年度採択
令和7(2025)年度フォローアップ結果
～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

令和8(2026)年3月30日

独立行政法人日本学術振興会

フォローアップの総括

事業3年目となる2024年度は、参加学生の増加へ向けて、サマープログラムやJV-Campus、オンライン授業等を活用した取組が多く展開された。さらに、意見交換会や国際シンポジウム、産官学連携セミナーなどの情報発信を通して、学生の交流も深まり学修の充実へつながった。また、全派遣・受入学生のうち、単位取得を伴う留学が6割を超える水準となってきたことを踏まえ、今後の事業発展に向け、さらなる交流プログラムの推進に期待したい。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績（派遣・受入学生数）等を、取組内容の進捗状況および調査票によりフォローアップの上、各事業から提出された特記すべき事項を取りまとめた。

主な交流先: 英国

【U-1 東北大学】 《レジリエントな社会を創造する日英米大学の国際連携》



〈藤崎百貨店の防災訓練での様子〉

■東北大学の災害科学の専門知を社会に還元し、防災環境都市・仙台づくりに寄与するため、様々な形で地域と連携した取組を行っている。東北地方に店舗を展開する百貨店、藤崎の本社・仙台本店とは、2024年度より留学生向けの講義と議論を伴う防災訓練を実施しており、2025年夏にはUCL(ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン/University College London)リスク&防災学科(RDR)所属のインターンシップ生4名をこの避難訓練に派遣し、多様な人達に向けた防災の対応や案内についての議論を行った。当該イベントは仙台市・協力の下実施されており、防災環境都市における多文化共生の推進に貢献している。

■イーストアングリア大学/University of East Anglia (UEA) へのFaculty Led(教員引率型)プログラムを新規開発、ハイブリッドで実施した。2024年度のプログラムでは、人権やDEI授業の他、事前研修に英国学生とのオンライン国際共修を組込んでおり、2025年度には、インターンシップの機会を提供すべく現地ソーシャルワーク団体における就業体験のセッションを複数追加している。



〈UCL-JapanYouthChallengeでのプレゼンテーション〉

■英国UCLと、これまで締結していなかった授業料相互不徴収の学生交流協定を新しく取り結ぶ動きが起こり、一年強の協議・調整を経て2025年7月に調印に至った。本事業による取組の大きな成果と言える。

■東北大学に在籍歴のあるUCL学生をアンバサダーとして任命し、東北大学短期受入プログラムの広報や学生サポート等、草の根レベルでの連携を行っている。2025年7月31日にUCLで開催されたUCL-JapanYouthChallengeでは大学案内の機会を設け、東北大学副学長(教育改革・国際戦略担当)と学生アンバサダーより日英の高校生に向けて東北大学の魅力をアピール、高校生リクルートにつなげた。

主な交流先:インド

【I-1 岐阜大学】 《グローバルJDPプラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成》

■JDPシンポジウムの開催

・2024年度もJDPを基盤とする教育、研究、地域創生に関するシンポジウムを岐阜とインドグワハティの双方で開催した。岐阜シンポジウムでは延べ249名、インドグワハティシンポジウムでは延べ176名が参加した。インドでのシンポジウムでは、日本から岐阜大学を含むインド工科大学グワハティ校、東京大学、筑波大学の4大学及び日本大使館、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)等の政府関係4機関、日本企業6社が参加し、学術分野ならびに産業分野における日印連携の現状と将来構想について議論した。学生及び研究者33名によるポスター発表がおこなわれ、シンポジウム参加者と研究討論を行った。シンポジウム中、スプリングスクール(短期海外派遣プログラム)の開講式が行われ、プログラム参加の本学学生10名もシンポジウムに参加し、国際的な議論や学術動向を学ぶ機会となった。



〈岐阜JDPシンポジウム〉



〈グワハティシンポジウムでの集合写真〉



〈スプリングスクール開講式〉

主な交流先:オーストラリア

【A-1 ○名古屋大学、岐阜大学】 《ポストSDGs時代の経済安全保障に貢献できる自律協働型国際プロフェッショナル人材育成》

—モナシュ大学・名古屋大学オンライン共同教育プログラム—

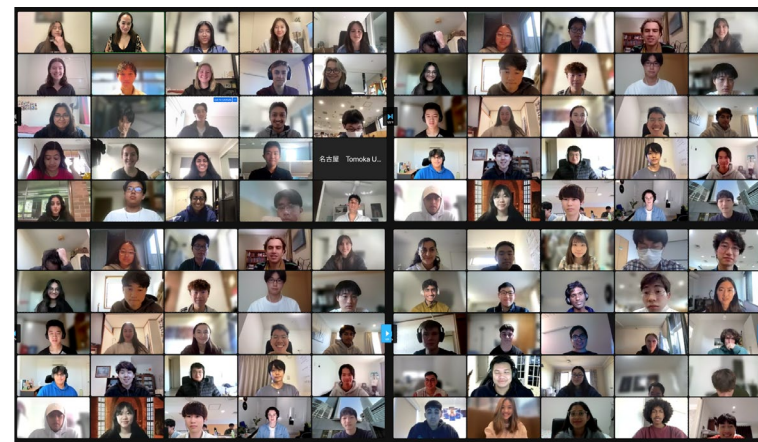
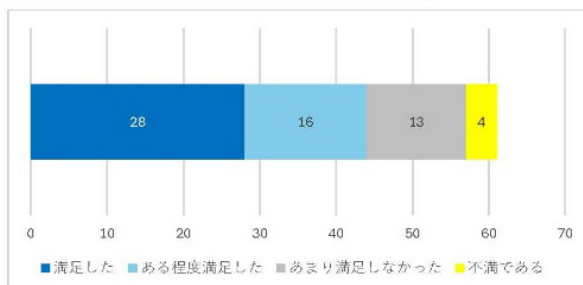
本プログラムは、名古屋大学医学部3年生全員(約110~120名)およびモナシュ大学医学部1年生全員(約300名)を対象として、2022年度よりZoomを用いた同時双方向型のオンライン授業を導入したものである。授業のテーマは「医療面接」であり、異なる文化的背景をもつ患者に対して主訴・現病歴・既往歴等をいかに聴取すべきかを症例を通じて学ぶことを目的とした。学生数に差があることから、モナシュ大学側は150名ずつ2グループに分割し、名古屋大学の126名と人数を均衡させた。さらに、名古屋大学生2~3名とモナシュ大学生3名による小グループを編成し、各グループ内でモデル症例を用いたロールプレイやディスカッションを行い、その成果を小グループごとのプレゼンテーションで共有した。

2024年度からは実施形式を改善し、正規授業として単位化した。図に示すとおり、学生からは極めて高い満足度を得られている。また、本プログラムは、希望者を対象としたモナシュ大学への短期派遣プログラムへの参加意欲を高め、現地での直接的交流と組み合わせることで、より充実した国際的な学習体験を可能としている。本取組は、将来の医療人材が国際的な視野を持ち、多様な文化的背景を理解しつつ医療面接を行う実践力を養うことを可能とする。これは、国際的な感染症危機や医療資源の制約下における協力体制を支える人材基盤の強化に直結し、医療分野における経済安全保障に資する教育プログラムとして位置づけられるものである。

図: オンライン共同教育プログラムに対する学生アンケートより (一部抜粋)

⑦ 総合的に見てこの科目に満足しましたか。

満足した	28人
ある程度満足した	16人
あまり満足しなかった	13人
不満である	4人



〈オンライン共同教育プログラムの様子〉

主な交流先:オーストラリア

【A-2 神戸大学】 ≪世界的課題解決に向けた工学系グローバル人材育成のための国際共修/ 協働学修プログラム≫

これまでのプログラムを通じて得た知見をもとに、本プログラムでは独自の日本語学習ツールを開発し、オンライン学習プラットフォーム「JV-Campus」にて公開する取り組みを実施した。これにより、来年度以降の参加者が渡日前に自律的に日本語学習に取り組むことが可能となり、言語的な不安を軽減しながら、講義や実習への理解を深める準備が整えられる。

事前学習の定着は、日本人学生との円滑なコミュニケーションや協働にもつながり、異文化理解や 学際的対話を促進する基盤となることが期待される。このような継続的な言語支援の仕組みは、プログラムの質的向上と学習成果の最大化を可能にし、グローバル工学人材の育成に資する好事例となっている。2024年度の派遣学生による学内成果報告を、2025年4月に開催した新入生向けプログラム説明会にて実施した。

本報告会は、単なる情報提供の場にとどまらず、報告内容の整理を通じて派遣学生自身にとっての事後学修の機会となると同時に、1年生に対しては具体的な参加イメージを与えることで応募意欲の喚起につながっている。また、実渡航を控える2年生に対しても、反省点や工夫、現地での学びを含めた実体験が直接共有されることで、準備意識や学修姿勢の向上を促している。このように、本取組は年次を超えた学生同士のピアラーニングの実践例として有効に機能しており、今後はさらにこうした学び合いの機会を組織的に拡充していく予定である。



主な交流先:オーストラリア

【A-3 東京都市大学】《アジア大洋州国際キャンパスにおけるカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材養成プログラム》

本事業の国内協力大学である世田谷6大学コンソーシアム加盟大学（国士館大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、東京農業大学及び東京都市大学）から講師を招き、日本文化、SDGs等、教養科目のビデオコンテンツ化を図っている。それらのコンテンツにはアジア太平洋州地域の文化、歴史を知るリベラルアーツ科目も含みJDプログラムを補完する教育コンテンツとなっている。それらコンテンツは英語字幕を付してJV-Campusにて公開し、シリーズ化して視聴しやすく配置した。

これにより東京都市大学のプレゼンスが向上し、学生増加へと結びつくものと期待する。2024年10月には、本事業に対して第1回の外部評価委員会を開催した。外部評価委員は国内大学の国際担当副学長クラスを中心とした方4名と産業界の方1名からなる。事業の推進に有意義なコメント・アドバイスを多数得ることができた。



〈国内協力大学の講師による講演の様子〉

Contents / コンテンツ

- JDプログラムサンプル講義
- 東京都市大学・エディスコワン大学のジョイントディグリープログラム
- 持続可能な社会のためのグローバル・イノベーター・プログラム
- 伝統、芸術、多文化共生：日本と台湾からの考察
- 持続可能な未来：AI時代の食、健康、イノベーション
- 大学紹介

● JDプログラムサンプル講義

東京都市大学・エディスコワンのジョイントディグリープログラムで実施されている授業のサンプルをご覧ください。

On Air

Joint degree program

SAMPLE LECTURES ①

TCU×ECU

PROF. RYUICHI URAKAWA

東京都市大学

JDプログラムサンプル講義① Lifestyle innovation for sustainable society

無料

On Air

Joint degree program

SAMPLE LECTURES ②

TCU×ECU

PROF. YUKI UNOSHITA

東京都市大学

JDプログラムサンプル講義② Synergy Between Japanese and Australian Researchers

無料

On Air

Joint degree program

SAMPLE LECTURES ③

TCU×ECU

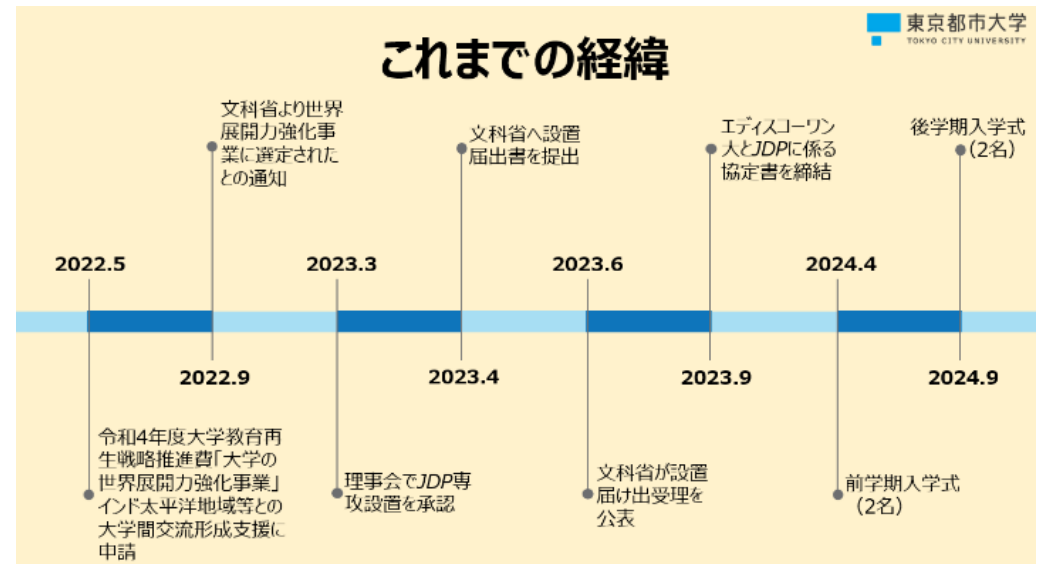
PROF. HIRONO SUZUKI

東京都市大学

JDプログラムサンプル講義③ Adaptive Model and Adaptive Behaviour in Japanese Office Buildings

無料

〈JV-Campusで公開しているビデオコンテンツの画面〉



〈外部評価委員会で使用された説明資料の抜粋〉

主な交流先:英国・インド

【UI-1 長岡技術科学大学】《マルチディメンジョン・キャンパスでのデュアルインターンシップを活用した国際協働学習プログラム》

2024年度は、昨年度に引き続き、長岡技術科学大学及びインド工科大学マドラス校の学生が主体となって「DX manufacturing workshops」を開催した。司会進行及び発表者として、インド工科大学マドラス校等から教員と学生を迎えて、対面とオンラインでのハイブリッド形式で実施し、オンラインではインドの他大学や、ベトナムからの参加者もあった。

また、同様に両大学の学生が主体となって、2次元メタバースを活用した学生交流イベントを実施した。長岡技術科学大学からは、インド工科大学マドラス校へ渡航予定の学生や本事業に興味を持っている学生が参加し、インド工科大学マドラス校からは日本語を学んでいる学生が参加した。ビデオチャット上で、各参加者が日本語と英語を交えて自己紹介を行った後、準備した資料を画面共有してプレゼンテーションを行い、お互いに自分の出身地域の特色等を紹介した。長岡技術科学大学の留学生にとっては、渡航前にインド工科大学マドラス校の学生と顔を合わせて交流することができ、インド工科大学マドラス校の学生にとっては、日本語能力を試す良い機会となった。このような取組は、お互いの学生の留学への意欲向上に繋がった。

また、実渡航を伴うプログラムについて、海外実務訓練は1名のみの派遣であったが、2025年度はインド工科大学リサーチパーク内の先端ものづくり研究所に加え、受入先の新規開拓により、インドの日系企業へも派遣できる見通しが立っている。大学院リサーチインターンシップは6名を派遣し、新たな研究室との交流を開始した。実渡航プログラムの終了後に学内で報告会を開催しているが、報告会は後輩学生への説明会も兼ねており、プログラムの内容にとどまらず、出発前のビザ取得等の手続きや現地での実生活等の留学の魅力について、詳細を聞くことができる機会となっている。先輩学生によるリアルな情報提供は、後輩学生の関心を引き出して、参加意欲を高め、次なる参加者を発掘する有効な機会となっている。

〈2次元メタバースを活用した学生交流〉



〈2次元メタバースを活用した学生交流 PC画面〉

主な交流先: 英国・オーストラリア

【UA-1 お茶の水女子大学】《グローバルリーダー育成のための「女子大学発」 実学型EDIプログラム》



〈サマープログラムにおけるフィールドトリップの様子〉

○お茶の水女子大学主催サマープログラム

本プログラムの一環として、お茶の水女子大学でサマープログラムを実施し、本プログラム学生を含めて合計139人(海外協定校生65名、お茶の水女子大学学生 74名)が1ヶ月間(オンライン2週間、対面授業2週間)にわたって本学で学習し、気候変動と食糧危機、文化的多様性と移民問題などの世界的な課題について議論した。サマープログラムを通じて短期間、お茶の水女子大学で学んだ留学生が母国に帰国後、交換留学に応募し、再度一年間来日するなど、受入の拡大につながっている。



〈インターンシップ成果報告会〉

○インターンシップ成果報告会

お茶の水女子大学学生と受入留学生がペアまたは少人数グループで、英語によるインターンシップに参加した。短期(10日間)または長期(3ヶ月間)に渡り互いに協力して、実社会におけるEDIの課題について調査し、発表資料をまとめ、各受入企業に対する提言を行った。その後、お茶の水女子大学の秋学期科目において実習体験を振り返った上で、本学に8社の短期インターンシップ受入企業を招き、インターンシップ成果報告会を全て英語で実施し、学生の活動と成果を発表し広く発信した。

○学生主催国際シンポジウム

本プログラムの最終成果報告として、学生主催国際シンポジウムをハイフレックスで開催し、オンライン講演・学生交流やグローバルインターンシップ、留学経験を振り返り、社会的マイノリティに対する公平性や多様性の促進などのEDIの課題について英語で発表を行い、意見を交換した。シンポジウムをハイフレックス開催することで、海外連携大学に滞在中の一部の学生もオンラインで発表を行い、社会における包摂性の深化について意見を交換し、理解を深めた。



〈学生主催国際シンポジウムにおける学生発表〉

主な交流先: 英国・オーストラリア

【UA-2 東洋大学】《ビジネス日本語教育を通じた高度日本語人材と多文化共生 グローバル人材の育成プログラム》

本事業を通じ、連携校からの受入学生・OB/OGと、連携校へ派遣する東洋大学学生との相互交流や学び合いの場を積極的に設けた。その一環として、正課科目「留学のすすめ」において、受入学生が自大学を日本語で紹介するプレゼンテーションを行う機会を提供した。これにより、受入学生には高度な日本語学習の成果を発表する場となり、日本人学生にとっては留学先となる連携大学を知る機会となった。また、帰国した受入OB/OG学生によるオンラインセッションや、受入学生の成果報告会に派遣学生が参加できるようにし、“縦・横”のネットワーク構築や相互交流を促進した。

さらに、2024年度には、受入事業と国内留学プログラムを有機的に融合させた「Toyo Bologna Winter Program」を実施した。連携校であるボローニャ大学の学生・教員を受入れ、東洋大学教員とボローニャ大学教員による共同授業を行ったほか、両大学の学生が国際交流宿舎に共に滞在することで、教室内だけでなく生活の場でも交流を深めることができた。その結果、両大学の学生間で密度の高い異文化交流を実現した。



〈「留学のすすめ」での発表の様子〉



〈Toyo Bologna Winter Programの様子〉

主な交流先:インド・オーストラリア

【IA-1 横浜国立大学】



〈 英会話トレーニング 〉

《レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携

【英会話トレーニングの実施】 ヨコハマ国際教育プログラム》
ネイティブ教員による英会話(スピーキング)のトレーニングを実施。

【国際協働学修(オンライン・対面)】

3段階の協働学修を実施。

1. 個別準備: 気候変動に関する課題を検討し、英語でまとめる。
2. オンライン討論: パートナー校学生と気候変動の影響に関する意見交換。
3. 対面講義・議論: 専門家による講義・対面でのディスカッションを実施。

【国際シンポジウム・ポスターセッション】

AIシンポジウムを在日インド大使館の後援を得てアンナ大学と共催し、最先端科学が拓く社会を議論。

YOKOHAMA-SXIP参加学生や関連研究を行う学生がポスター発表。分野横断的な討論を通じて、国際コミュニケーション能力を向上。

【産官学連携セミナーの開催】

「持続可能な社会に向けたリスク管理」をテーマに、学内外から講師を招いて対面で議論を実施。

第3回YOKOHAMA-SXIP
産官学連携人材育成セミナー

～リスクに立ち向かう社会の構築～

YOKOHAMA
sustainability-
transformation" SX"
International Program

私が大学で勉強したり研究したりしていることは、豊かさや便利さにつながることも多いかもしれませんが、しかし、ときに災害や人為的な事故により一瞬でそれが失われる時代を私たちは経験しています。安全な暮らし、持続可能な社会を実現する手がかりはどこにあるのでしょうか。それを知り、考えることは大学で学び研究する私たちの責任でもあります。本セミナーでは、持続可能な社会に向けたリスク管理について学内外の講師を招いて検討します。

2024年
12月11日
(水)

横浜国立大学
大学会館4階
多目的ホール

対面・オンライン
ハイブリッド実施

13:00 開会

13:05-13:45 基調講演「グローバル・アクションとしての防災・減災: これまでの成果とこれからの課題」水鳥 真美氏

13:45-14:05 講演「保険業におけるAI/デジタルエンジニアリング-自然災害リスク評価」向後 勝敏氏・林 晃大氏

14:05-14:25 講演「安全工学と自然災害」向後 勝敏氏

14:25-14:40 休息

14:40-15:00 講演「自然資本と企業経営」大森 明氏

15:00-15:40 パネルディスカッション

15:40 閉会

15:45-16:10 情報交換・懇談会

基調講演: 水鳥 真美氏 (三井住友海上火災保険(株)顧問、前国際連合東アジア特別代表(防災担当)東 国連防災機関長)

講演: 向後 勝敏氏 (東京海上インテール(株)エグゼクティブ・ディレクター)
林 晃大氏 (東京海上インテール(株)シニア・マネージャー)
熊崎 美枝子氏 (横浜国立大学環境情報研究センター 教授)
大森 明氏 (横浜国立大学国際社会科学研究院 教授)

※参加費無料。どなたでもご参加いただけます
主催: 横浜国立大学 YOKOHAMA-SXIP 企画・運営委員会

〈 産官学連携セミナーポスター 〉



〈 グリフィス大学でのプレゼンテーション 〉



〈 ポスターセッションでの交流 〉

主な交流先: インド・オーストラリア

【IA-2 新潟大学】 ≪インド太平洋地域の「仮想フィールド」を活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム≫

○ オンライン×オンサイトのハイブリッド型学習

本事業は、まずオンラインで各国各地域ならではのフィールドを体系的に学習し、それに次いで自国にないフィールドの空気感へ多分に触れることのできる現地フィールド実習に取り組むハイブリッド型フィールド科学教育プラットフォームを構築中。



○ デジタル学習歴: オープンバッジ

質の保証を伴った自律的な国際教育プログラムへの下地として、中長期プログラム修了者用にオープンバッジを登録・発行中。



中期4名・長期7名に発行済

○ グローバル人材の育成と実践的英語力の強化

参加学生の興味を強く後押しし、国際学会発表の支援や英文作成教育を実施中。より実務的なコミュニケーション能力や国際基準で通用する報告書の作成能力の向上が見込まれる。



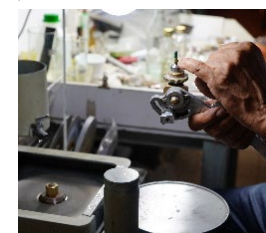
〈ポスター賞受賞!〉 学術論文: 計10編の投稿/国際学会: 計16件の発表

○ 「自然—産業」の有機的連携に関わる学習

フィールド科学と自然資源を活用する産業との関りを学ぶことができるプログラムを展開中。スリランカでは自然と紅茶産業、地質と宝石産業について体験する企業訪問を実施した。また、インド工科大学ルールキー校では「ジオ・ツーリズム」と題したアントレプレナー教育も実施。



〈錫: Tea Factory〉



〈錫: 宝石産業〉



〈印: ジオ・ツーリズム〉

主な交流先: 英国・インド・オーストラリア

【UIA-1 千葉大学】《グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成プログラム (GRIP Program)》

本プログラム5か年計画(右図)の3年目 (PHASE2)となる2024年度は、「GRIPの周知普及(アメリカ、台湾、ベトナム等)」と「グローバルIPEとしての洗練・専門家との連携による拡大(カタール、南アフリカ)」の2点を重点目標として取り組みを展開した。

この計画のもと、2025年1月25日に千葉大学主催でオンライン開催された国際シンポジウム「Global & Regional IPE+シンポジウム2024年度」では、「世界の多職種連携教育のトレンドと展望～ユニバーサルヘルスカバレッジを目指して～」をテーマに、IPE: Interprofessional Education (専門職連携教育)とサービスラーニングの国際的動向や意義について各国の専門家が議論した。イギリス、カタール、南アフリカ、インド、日本、カナダの登壇者が多様な実践や課題を報告し、UHC(ユニバーサルヘルスカバレッジ)実現に向けたIPEとサービスラーニングの役割、そしてGRIPプログラム国際モデル化への期待が示された。アンケートでは満足度が高く、他国事例との比較や実践手法の学びに意欲的な回答が集まった。

さらに、2025年3月9日に千葉大学およびオンラインで開催された「Global & Regional IPE+フォーラム」では、「サービスラーニング×IPEが拓く協働の未来」をテーマに7カ国の登壇者を迎え、IPEの国際展開と実装について多角的な議論が行われた。各国のIPE実装状況の紹介や、学生の共感力・多様性理解の深化、地域社会との接点の拡大など教育効果が確認され、現場での課題や戦略についても建設的な意見交換がなされた。アンケート結果からは、IPEとサービスラーニング融合型教育への期待や今後の国際連携強化の必要性が示された。



〈フリーステート大学・南アフリカ IPE実
施施設訪問時のGRIP教員〉

CHIBA UNIVERSITY | griP | Global & Regional Interprofessional Education Plus Program | SUSTAINABLE GOALS | IPE

文部科学省 大学の世界展開力強化事業

Global & Regional IPE+ シンポジウム
世界の多職種連携教育のトレンドと展望
～ユニバーサルヘルスカバレッジを目指して～
Global Trends in Interprofessional Education~Towards Achieving Universal Health Coverage~

Part 1 パネリスト報告・発表
Global IPE trends and their respective challenges
-開催日時: 2025年1月13日(月)視聴開始予定
-開催方法: GRIP Webサイト掲載の動画をオンデマンド視聴
-言語: 日英字幕あり

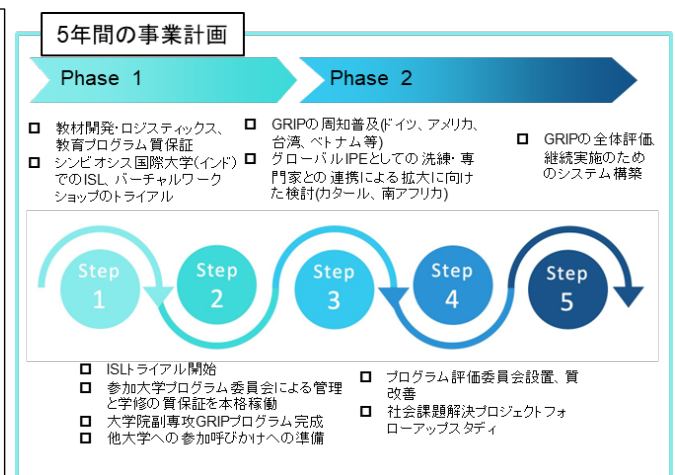
Part 2 パネルディスカッション
The Impact of Promoting Interprofessional Service Learning on Universal Health Coverage
-開催日時: 2025年1月25日(土)18時00分(日本時間)開始
-開催方法: ウェビナーでのリアルタイム・オンラインセッション
-言語: 日英同時通訳あり **参加費無料!**

パネリスト

フリッシュマン セントルイス大学 J.H.V. ギルバート 教授
千葉大学 IPERC センター長 渡井朝子 教授
レスター大学 専門職連携教育 E.アンダーソン 教授
カタール大学 多職種連携教育プログラム議長 エル・アブ・イン博士
フリーステート大学 健康科学部長、リハビリテーション科 学部長 C.イヴァン・フーン 教授
シンジビシス国際大学 コミュニティ・アウトリーチプログラム (SCORP) シ・ダニエル 助教授

IPE(専門職連携教育)が目指すことはユニバーサルヘルスカバレッジです。そのために世界の各地でIPEが推進されています。住民とともにそれぞれの専門職が、ともにお互いからお互いから学びあうの姿をお見せするために、その国やエリアの社会課題に対応するサービスラーニングを含んだIPEが必要となっています。世界のIPEとサービスラーニングについて共有し話し合うシンポジウムにぜひご参加ください。

〈 国際オンラインシンポジウム告知ポスター〉



主な交流先:英国・インド・オーストラリア

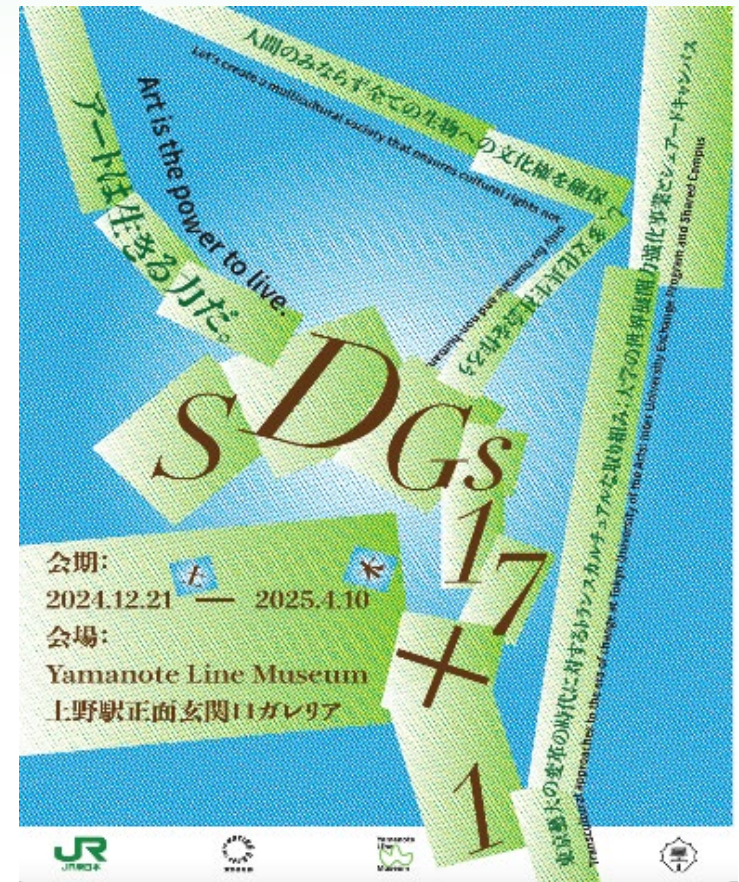
【UIA-2 東京芸術大学】≪Shared Campus(国際共創キャンパス)を活用した日英豪印 SDGs × ARTs グローバルリーダー養成プログラム—世界を幸福にするイノベーション創出—≫

展覧会の実施による社会への情報発信

本事業の成果発表展として、「SDGs17+1 “アートは生きる力だ。人間のみならず全ての生物への文化権を確保し、多文化共生社会を作ろう”」を、令和6年12月から令和7年4月にかけて、東京・上野駅のYamanote Line Museumで開催した。本事業に参加した東京芸術大学学生や教員、連携校の学生の制作作品を展示し、社会に広く成果を発信した。

国際共修科目の新規開設

本事業の交流プログラムや本事業においてネットワークを活用するShared Campusでのプログラムについて、学内で授業科目として新規開設することを目指し、調整を進めた。令和7年度より国際共修科目を開講している。



〈成果発表展のパンフレット〉

主な交流先: 英国・インド・オーストラリア

【UIA-3 広島大学】

《国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ》



〈2025年2月10日同連絡会: 学生主体ワークショップの様子〉



〈2025年2月10日第3回幹事校連絡会_意見交換会 & 留学報告会〉

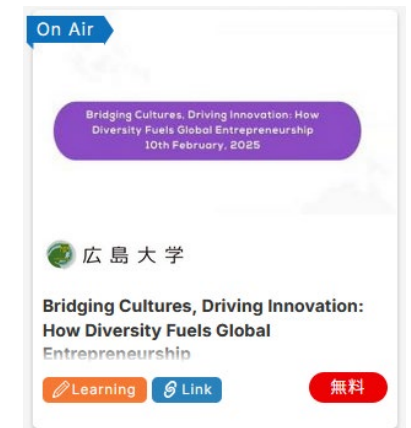


・採択校連絡会の開催

令和7年2月10日、広島大学フェニックス国際センター MIRAI CREA にて、大学の世界展開力強化事業(インド太平洋地域対象プログラム)の令和6年度第3回採択校連絡会を開催した。学生による留学体験発表、スズキ株式会社の齊藤欽司氏と西中川薫氏(オーストラリア)がオンライン講演を行った。学生主体の Positive Peace Society 企画のワークショップも同時に開催した。また、教職員向けにはビザや情報発信、大学間連携などをテーマに意見交換を行った。

・JV-Campusでの動画一般公開

幹事校連絡会で実施したオンライン講演において、オーストラリアで日豪間の連携支援やイノベーション推進に取り組む西中川薫氏(“Bridging Cultures, Driving Innovation”)より、新たなビジネスチャンスの創出やビジネス成功における多様性の重要性についてご講演いただき、その動画を公開。



〈2025年5月12日JV-Campus一般公開〉

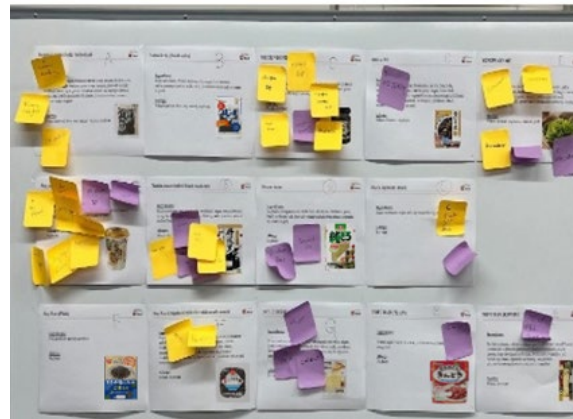
主な交流先: 英国・インド・オーストラリア

【UIA-4 ○関西国際大学、神戸芸術工科大学、宮崎国際大学】

《産学官連携ベンチャー・エコ・システム創成による起業家育成カリキュラムの展開》

本事業は、異文化間環境において起業家マインドを持って多様な仲間と協働し、第四次産業革命の時代に適した新しい産業やビジネスを牽引する、国際的イノベーターの育成を目指している。

本目的を達成するため、ウェスタンシドニー大学／Western Sydney University (WSU) 派遣プログラムでは、参加学生は、現地日系企業が実際に直面している課題の解決に取り組み、社会にインパクトを生み出すイノベーターになるための視野を広げるとともに、その過程で専門家による講義、現地企業及び起業家スクール訪問、現地学生との交流を行うことで、広くこれら関係者との関係を構築して深い学びを得た。また神戸プログラムでは、日本と海外の学生が協働で、日本企業訪問等の実践機会も交えつつ英語で12日間の起業家育成研修を受講、その結果を関西国際大学キャンパスにおいて聴衆の前で英語で発表することで、広くその成果を発信することができた。



〈神戸受入プログラム: 左、中は食品企業の問題分析の様子、右は国際学生起業家会議でのビジネス・アイデアの提案の様子〉

交流学生の実績

交流プログラムで留学した日本人学生数(派遣学生数)について

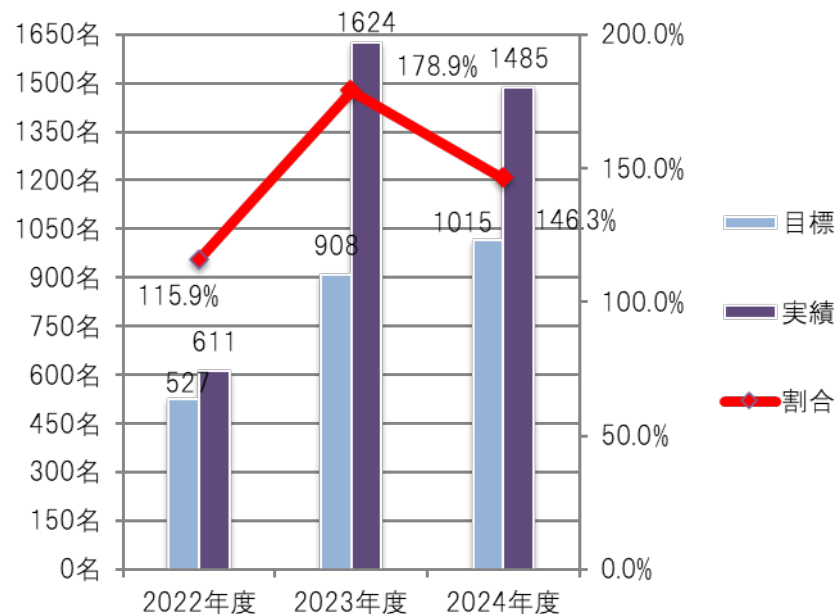
※個別派遣学生数の詳細は別表1を参照

<全体の状況>

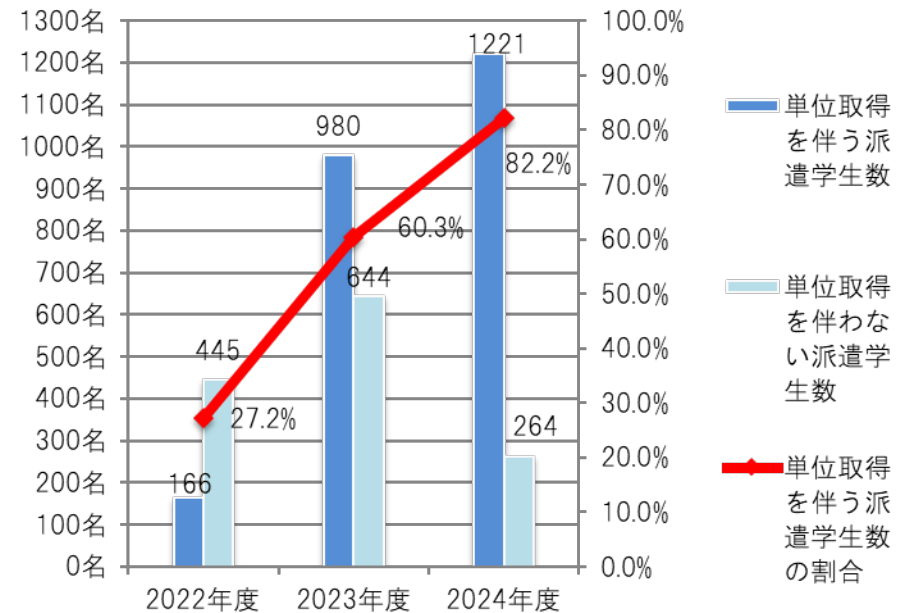
派遣の実績は前年度よりわずかに減少したものの、146.3%と目標値を大きく上回り、前年度と同様、高い達成率となった。

また単位取得を伴う派遣学生数も年々増加しておりさらなる期待が持てる。

達成目標に対する実績の割合(派遣)



単位取得を伴う派遣学生数



交流学生の実績

交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について

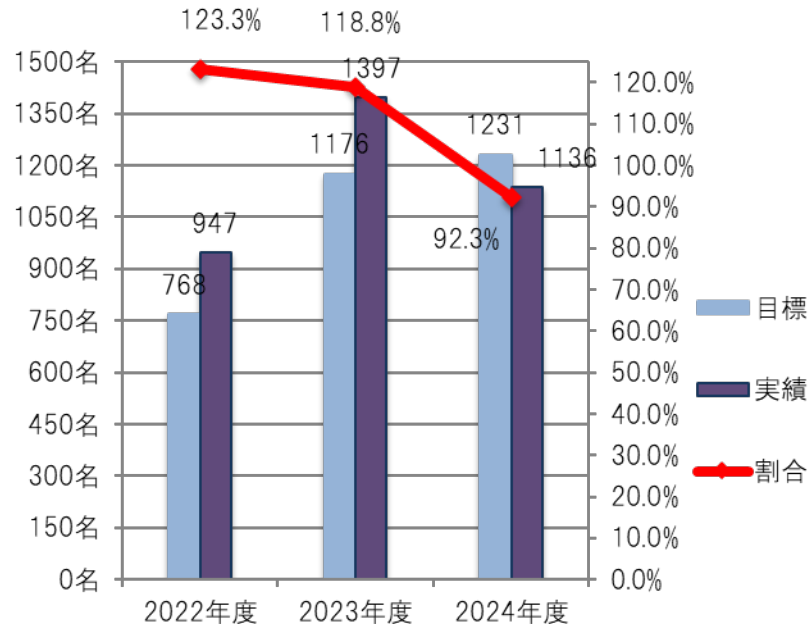
※個別受入学生数の詳細は別表2を参照

<全体の状況>

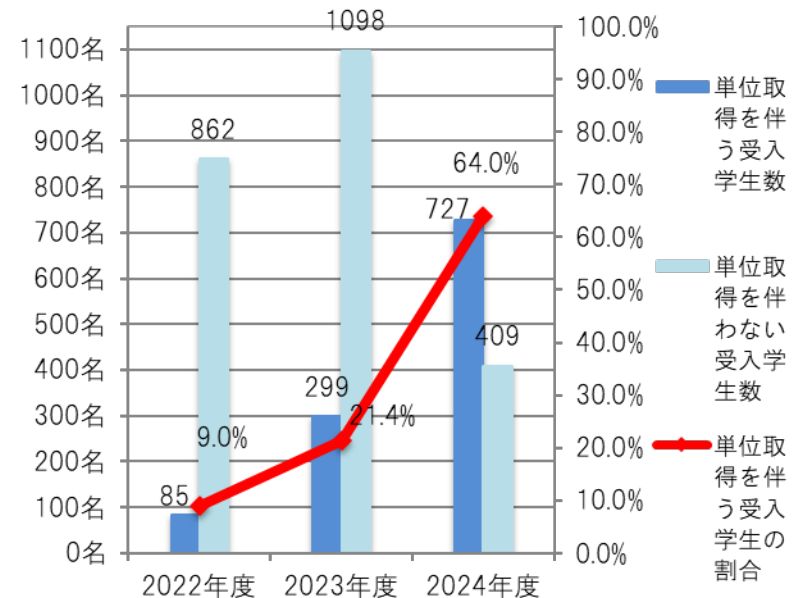
2024年度は単位取得を伴う受入学生数が大きく増え、全体の64.0%を占めるまでに拡大した。

また、達成目標に対する実績目標の1231人をわずかに下回ったものの、達成率92.3%と高い水準を維持している。

達成目標に対する実績の割合(受入)



単位取得を伴う受入学生の割合



別表1：プログラムごとの派遣学生数（2022年度採択）

(単位：人)

主な交流先	大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)																	
				目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						上記以外の派遣学生数											
							(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上			
							目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
英国	東北大学	レジリエントな社会を創造する日英米大学の国際連携	2022	8	21	262.5	8	17	8	16	0	0	0	1	0	4	0	4	0	0	0	0		
			2023	20	53	265.0	20	52	12	49	0	0	8	3	0	1	0	1	0	4	0	0	0	
			2024	30	60	200.0	30	56	15	51	0	0	15	5	0	4	0	4	0	4	0	0	0	
			2025	40	0	0.0	40	0	20	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2026	47	0	0.0	47	0	25	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	145	134	92.4	145	125	80	116	0	0	65	9	0	9	0	9	0	9	0	4	0	0	0		
インド	岐阜大学	グローバルJDPプラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成	2022	12	23	191.7	2	4	0	0	0	0	2	4	10	19	2	10	8	9	0	0		
			2023	16	23	143.8	5	7	0	0	2	2	3	5	11	16	3	10	8	6	0	0		
			2024	22	26	118.2	10	9	0	0	5	1	5	8	12	17	4	10	8	7	0	0		
			2025	29	0	0.0	15	0	0	0	8	0	7	0	14	0	6	0	8	0	0	0		
			2026	34	0	0.0	19	0	0	0	9	0	10	0	15	0	7	0	8	0	0	0		
計	113	72	63.7	51	20	0	0	24	3	27	17	62	52	22	30	40	22	0	0	0				
オーストラリア	名古屋大学、岐阜大学	ポストSDGs時代の経済安全保障に貢献できる自律協働型国際プロフェッショナル人材育成	2022	149	274	183.9	8	21	6	21	2	0	0	0	141	253	139	252	2	0	0	1		
			2023	163	319	195.7	16	26	6	26	6	0	4	0	147	293	145	290	2	0	0	3		
			2024	163	225	138.0	16	164	6	156	6	0	4	8	147	61	145	60	2	0	0	1		
			2025	160	0	0.0	13	0	0	0	4	0	3	0	147	0	145	0	2	0	0	0		
			2026	159	0	0.0	12	0	0	0	4	0	2	0	147	0	145	0	2	0	0	0		
	計	794	818	103.0	65	211	30	203	22	0	13	8	729	607	719	602	10	0	0	5				
	神戸大学	世界的課題解決に向けた工学系グローバル人材育成のための国際共修・協働学修プログラム	2022	15	30	200.0	15	30	15	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
			2023	20	16	80.0	20	16	20	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
			2024	20	15	75.0	20	15	20	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
			2025	22	0	0.0	22	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
2026			23	0	0.0	23	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
計	100	61	61.0	100	61	100	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
東京都市大学	アジア大洋州国際キャンパスにおけるカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材養成プログラム	2022	22	6	27.3	0	0	0	0	0	0	0	0	22	6	20	0	2	6	0	0			
		2023	7	6	85.7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	6	5	4	2	2	0				
		2024	10	5	50.0	5	1	0	0	0	0	5	1	5	4	5	4	0	0	0				
		2025	10	0	0.0	5	0	0	0	0	0	5	0	5	0	5	0	0	0	0				
		2026	10	0	0.0	5	0	0	0	0	0	5	0	5	0	5	0	0	0	0				
計	59	17	28.8	15	1	0	0	0	0	15	1	44	16	40	8	4	8	0	0					
英国・インド	長岡技術科学大学	マルチディメンション・キャンパスでのデュアルインターンシップを活用した国際協働学習プログラム	2022	2	21	1050.0	0	2	0	2	0	0	0	0	2	19	2	18	0	1	0			
			2023	15	23	153.3	9	5	0	1	0	0	9	4	6	18	6	18	0	0	0			
			2024	26	33	126.9	20	7	7	0	0	3	13	4	6	26	6	26	0	0	0			
			2025	39	0	0.0	32	0	11	0	0	0	21	0	7	0	6	0	0	0	1			
			2026	39	0	0.0	32	0	11	0	0	0	21	0	7	0	6	0	0	0	1			
計	121	77	63.6	93	14	29	3	0	3	64	8	28	63	26	62	0	1	2	0					
英国・オーストラリア	お茶の水女子大学	グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型EDIプログラム	2022	50	2	4.0	0	2	0	0	0	0	0	2	50	0	50	0	0	0	0			
			2023	118	71	60.2	18	17	8	10	0	0	10	7	100	54	100	54	0	0	0			
			2024	139	68	48.9	39	19	26	7	0	0	13	12	100	49	100	49	0	0	0			
			2025	199	0	0.0	46	0	28	0	0	0	18	0	153	0	153	0	0	0	0			
			2026	209	0	0.0	56	0	34	0	0	0	22	0	153	0	153	0	0	0	0			
計	715	141	19.7	159	38	96	17	0	0	63	21	556	103	556	103	0	0	0						
オーストラリア	東洋大学	ビジネス日本語教育を通じた高度日本語人材と多文化共生グローバル人材の育成プログラム	2022	155	148	95.5	15	43	0	27	0	0	15	16	140	105	140	105	0	0	0			
			2023	349	367	105.2	59	123	0	74	0	1	59	48	290	244	290	244	0	0	0			
			2024	381	225	59.1	91	133	0	106	0	0	91	27	290	92	290	90	0	0	2			
			2025	372	0	0.0	82	0	0	0	0	0	82	0	290	0	290	0	0	0	0			
			2026	400	0	0.0	110	0	0	0	0	0	110	0	290	0	290	0	0	0	0			
計	1657	740	44.7	357	299	0	207	0	1	357	91	1300	441	1300	439	0	0	2						
インド・オーストラリア	横浜国立大学	レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム	2022	12	9	75.0	12	9	12	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			2023	18	21	116.7	18	21	18	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			2024	18	18	100.0	18	18	18	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			2025	18	0	0.0	18	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			2026	18	0	0.0	18	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
計	84	48	57.1	84	48	84	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
オーストラリア	新潟大学	インド太平洋地域の「仮想フィールド」を活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム	2022	20	20	100.0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	0	0	0	0			
			2023	60	93	155.0	60	93	50	91	6	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0			
			2024	65	183	281.5	65	183	51	180	8	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0			
			2025	65	0	0.0	65	0	51	0	8	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0			
			2026	80	0	0.0	80	0	62	0	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0			
計	290	296	102.1	270	276	214	271	31	3	25	2	20	20	20	20	0	0	0						
英国・インド・オーストラリア	千葉大学	グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成(GRIP Program)	2022	10	10	100.0	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			2023	15	15	100.0	15	15	10	15	0	0	0	0	5	0	5	0	0	0				
			2024	20	20	100.0	20	20	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			2025	30	0	0.0	30	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			2026	40	0	0.0	40	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	計	115	45	-	115	40	115	40	0	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0					
	東京芸術大学	Shared Campus(国際共創キャンパス)を活用した日英豪印 SDGs x ARTsグローバルリーダー養成プログラムー世界を幸福にするイノベーション創出ー	2022	2	24	1200.0	2	9	2	9	0	0	0	0	15	0	15	0	0	0				
			2023	10	10	100.0	7	7	6	7	0	0	1	0	3	3	3	0	0	0				
			2024	10	16	160.0	7	9	6	8	0	1	1	0	3	7	3	7	0	0	0			
			2025	10	0	0.0	7	0	6	0	0	0	1	0	3	0	3	0	0	0	0			
2026			10	0	0.0	7	0	6	0	0	0	1	0	3	0	3	0	0	0	0				
計	42	50	119.0	30	25	26	24	0	1	4	0	12	25	12	25	0	0	0						
広島大学	国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ</																							

別表2：プログラムごとの受入学生数（2022年度採択）

(単位：人)

主な 交流先	大学名	事業名	取 組 年 度	合計人数		達成目標 に対する 実績の 割合 (%)	(内訳)															
				目標 (計)	実績 (計)		単位取得を伴う受入学生数						上記以外の受入学生数									
							(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上	
							目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
英国	東北大学	レジリエントな社会を創造する日英米大学の国際連携	2021	10	16	160.0	0	5	0	0	0	0	0	5	10	11	10	11	0	0	0	0
			2022	20	35	175.0	5	35	0	25	0	0	0	5	10	15	0	15	0	0	0	0
			2023	35	43	122.9	20	34	0	30	0	0	20	4	15	9	15	9	0	0	0	0
			2024	45	0	0.0	25	0	0	0	0	0	25	0	20	0	20	0	0	0	0	0
			計	160	94	58.8	78	74	0	55	0	0	78	19	82	20	82	20	0	0	0	0
インド	岐阜大学	グローバルJDPプラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成	2021	15	31	206.7	7	21	0	0	0	0	7	21	8	10	4	6	4	4	0	0
			2022	16	34	212.5	8	22	0	0	0	0	8	22	8	12	4	6	4	1	0	5
			2023	20	36	180.0	10	26	0	0	1	0	9	26	10	10	6	6	4	4	0	0
			2024	23	0	0.0	12	0	0	0	1	0	11	0	11	0	7	0	4	0	0	0
			計	100	101	101.0	51	69	0	0	3	0	48	69	49	32	29	18	20	9	0	5
オーストラリア	名古屋大学、岐阜大学	ポストSDGs時代の経済安全保障に貢献できる自律協働型国際プロフェッショナル人材育成	2021	280	608	217.1	13	0	5	0	5	0	3	0	267	608	267	608	0	0	0	0
			2022	282	623	220.9	15	3	5	0	5	0	5	3	267	620	267	620	0	0	0	0
			2023	282	319	113.1	15	309	5	300	5	0	5	9	267	10	267	10	0	0	0	0
			2024	283	0	0.0	16	0	0	0	5	0	6	0	267	0	267	0	0	0	0	0
			計	1409	1550	110.0	74	312	25	300	25	0	24	12	1335	1238	1335	1238	0	0	0	0
	神戸大学	世界的課題解決に向けた工学系グローバル人材育成のための国際共修・協働学修プログラム	2021	20	0	0.0	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2022	20	44	220.0	20	0	20	0	0	0	0	0	0	44	0	22	0	22	0	0
			2023	20	20	100.0	20	0	20	0	0	0	0	0	0	20	0	20	0	0	0	0
			2024	20	0	0.0	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	100	64	64.0	100	0	100	0	0	0	0	0	0	64	0	42	0	22	0	0
東京都市大学	アジア大洋州国際キャンパスにおけるカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材養成プログラム	2021	17	29	170.6	0	0	0	0	0	0	0	0	17	29	15	29	2	0	0	0	
		2022	2	37	1850.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	37	0	32	2	5	0	0	
		2023	0	43	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	0	43	0	0	0	0	
		2024	25	0	0.0	5	0	0	0	0	0	5	0	20	0	20	0	0	0	0	0	
		計	49	109	-	10	0	0	0	0	0	10	0	39	109	35	104	4	5	0	0	
英国・インド	長岡技術科学大学	マルチディメンション・キャンパスでのデュアルインターンシップを活用した国際協働学修プログラム	2021	1	2	200.0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2	0	0	0	0	
			2022	11	13	118.2	5	2	0	0	0	2	5	0	6	11	6	11	0	0	0	0
			2023	20	20	100.0	13	3	7	0	0	3	6	0	7	17	6	17	0	0	1	0
			2024	32	0	0.0	23	0	13	0	0	0	10	0	9	0	6	0	0	0	3	0
			計	96	35	36.5	64	5	33	0	0	5	31	0	32	30	25	30	0	0	7	0
オーストラリア	お茶の水女子大学	グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型EDIプログラム	2021	54	7	13.0	4	0	4	0	0	0	0	50	7	50	7	0	0	0	0	
			2022	176	68	38.6	26	11	16	0	0	0	10	11	150	57	150	57	0	0	0	0
			2023	183	35	19.1	33	2	20	0	0	0	13	2	150	33	150	33	0	0	0	0
			2024	248	0	0.0	46	0	30	0	0	0	16	0	202	0	202	0	0	0	0	0
			計	919	110	12.0	166	13	106	0	0	0	60	13	753	97	753	97	0	0	0	0
	東洋大学	ビジネス日本語教育を通じた高度日本語人材と多文化共生グローバル人材の育成プログラム	2021	203	167	82.3	33	37	0	0	0	0	33	37	170	130	170	130	0	0	0	0
			2022	342	286	83.6	67	53	0	0	0	0	67	53	275	233	275	233	5	0	0	0
			2023	360	284	78.9	85	120	0	35	0	0	85	85	275	164	275	135	5	0	0	29
			2024	362	0	0.0	87	0	0	0	0	0	87	0	275	0	275	0	5	0	0	0
			計	1644	737	44.8	374	210	0	35	0	0	374	175	1270	527	1250	498	20	0	0	29
インド・オーストラリア	横浜国立大学	レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム	2021	12	12	100.0	12	2	12	0	0	0	0	2	0	10	0	10	0	0	0	
			2022	18	20	111.1	18	4	18	0	0	0	0	4	0	16	0	16	0	0	0	
			2023	18	23	127.8	18	23	17	21	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	
			2024	18	0	0.0	18	0	17	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
			計	84	55	65.5	84	29	81	21	0	0	3	8	0	26	0	26	0	0	0	0
新潟大学	インド太平洋地域の「仮想フィールド」を活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム	2021	20	29	145.0	0	0	0	0	0	0	0	20	29	20	29	0	0	0	0		
		2022	65	76	116.9	65	76	54	71	7	0	4	5	0	0	0	0	0	0	0		
		2023	70	83	118.6	70	83	55	76	10	1	5	6	0	0	0	0	0	0	0		
		2024	70	0	0.0	70	0	55	0	10	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0		
		計	310	188	60.6	290	159	229	147	40	1	21	11	20	29	20	29	0	0	0	0	
英国・インド・オーストラリア	千葉大学	グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成 (GRIP Program)	2021	10	10	100.0	0	10	0	10	0	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	
			2022	15	15	100.0	3	10	3	10	0	0	0	0	12	5	12	5	0	0	0	
			2023	20	20	100.0	3	15	3	15	0	0	0	0	17	5	17	5	0	0	0	
			2024	30	0	0.0	5	0	5	0	0	0	0	0	25	0	25	0	0	0	0	
			計	115	45	39.1	19	35	19	35	0	0	0	0	96	10	96	10	0	0	0	0
	東京芸術大学	Shared Campus (国際共創キャンパス)を活用した日英豪印 SDGs x ARTsグローバルリーダー養成プログラムー世界を幸福にするイノベーション創出ー	2021	6	4	66.7	6	4	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2022	21	30	142.9	12	17	9	17	0	0	3	0	9	13	9	11	0	2	0	
			2023	21	79	376.2	12	65	9	65	0	0	3	0	9	14	9	13	0	1	0	
			2024	21	0	0.0	12	0	9	0	0	0	0	0	9	0	9	0	0	0	0	
			計	90	113	125.6	54	86	42	86	0	0	12	0	36	27	36	24	0	3	0	
広島大学	国際協働学修を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ	2021	40	2	5.0	40	2	0	0	40	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2022	72	60	83.3	67	60	20	20	40	34	7	6	5	0	4	0	1	0	0		
		2023	52	41	78.8	47	41	0	40	37	7	4	5	0	4	0	1	0	0	0		
		2024	72	0	0.0	67	0	20	0	40	0	7	0	5	0	4	0	1	0	0		
		計	288	103	35.8	268	103	40	20	200	73	28	10	20	0	16	0	4	0	0		
関西国際大学、神戸芸術工科大学、宮崎国際大学	産官学連携ベンチャー・エコシステム創成による起業家育成カリキュラムの展開	2021	40	15	37.5	40	2	24	2	16	0	0	0	13	0	13	0	0	0	0		
		2022	58	28	48.3	58	3	33	3	20	0	5	0	0	25	0	24	0	0	1		
		2023	65	45	69.2	65	3	40	3	20	0	5	0	0	42	0	42	0	0	0		
		2024	61	0	0.0	61	0	30	0	26	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0		
		計	289	88	30.4	289	8	167	8	102	0	20	0	0	80	0	79	0	0	1		
総計				5,653	3,392	60.0	1,921	1,103	842	707	370	79	709	317	3,732	2,289	3,677					